

広報

カナタ

2/1/01

N0416



役場屋上より雪の町並を望む

さざんか

ごあんない

- (P 2~3) ……海外での教師生活
- (P 4~9) ……まちのわだい
- (P 10~11) ……お元気ですか？ 食進会です！
- (P 12~13) ……みんなのひろば
- (P 14~17) ……くらしの情報ほか



福岡県金田町

海外での教師生活

FEATURE Teaching a long way from home

November 9, 2000
The Verona Press

by Karl Curtis

Every morning for the past month three teachers in the Verona school district have gotten out of bed and gone to school - several thousand miles from home.

Kenji Sakamoto, a high school special education teacher, Fumaki Hashimoto, a 2nd grade math teacher, and Toshiko Yamachi, 4th grade teacher, all from central Japan, have been in the Verona Area School District since October, observing classrooms and teaching. The teachers are participating in the 2000 Japan Wisconsin Education Connection program sponsored by the Department of Public Instruction. Following their time in Verona they will be spending three weeks in Milwaukee, with stops in Chicago, Washington, D.C., and San Francisco separated in an effort.

The three teachers arrived in Madison from Japan in September, and they stayed in Madison for several weeks to work on their conversational English. Since the trip had only been planned last March, it was little time to study at home. AS they learned enough to get by, they are far from fluent.

"We are teachers, and our work is very hard," Sakamoto explained. "We have no time to study." Occasionally, struggling for the right word or phrase seemed to make a fun challenge to them as an obstacle to communication.

Hashimoto and Sakamoto had visited the United States before, but for Yamachi it was her first visit to the country. She was particularly fond of Madison and the country side.

"It is a very nice view," she said. "The lake is big and beautiful, and the people are very kind." To further immerse themselves in the Western lifestyle the group attended a Badger football game.

Teachers visiting Verona from Japan are (from left) Fumaki Hashimoto, Kenji Sakamoto, and Toshiko Yamachi. photo by Karl Curtis

went to church, and Hashimoto even had the opportunity to referee a youth soccer match.

The trio stayed with host families to further acclimate themselves to the American way of life, and on Oct. 4th began their work in Verona schools. Their mission was to both observe the American classroom and to present to the local students. All three taught the Wisconsin, Kansas, California and other aspects of Japanese culture, and they were impressed by how eager the students were to learn and share.

"The students were very kind and tender," Yamachi said. "The students explained about their school and class."

The teachers have all noticed similarities in the way American teachers and Japanese teachers prepare for class. They have also noticed some differences between school here and in their home country.

"Teachers (here) can choose a table or desks," Hashimoto observed. "In Japan there is only one style, desks (in rows) only." Hashimoto likes having students around tables, and believes it encourages students to help each other. Each student can teach another," he said.

Sakamoto, the special education teacher, was impressed by the concept of mainstreaming.

"My school in Japan has only handicapped students," he said. "In Verona all the students are together. I think it is a very good system." His classroom in Japan consists of seven students with first teachers.

Despite their little twinges of homesickness, the teachers have been very glad for the experience here in Verona.

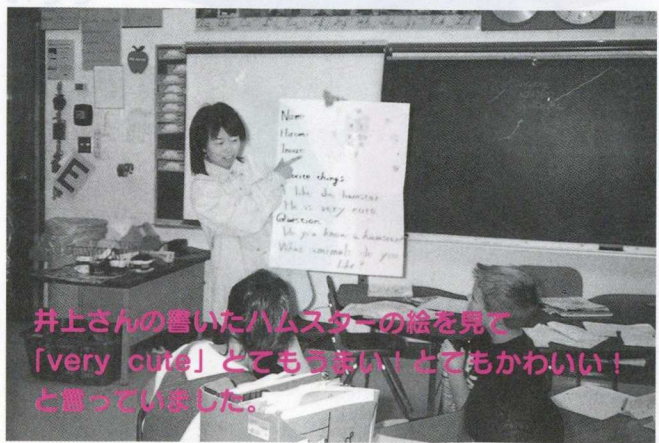
"We will come again in the near future," Sakamoto said.

"It has been very, very, very fun," Yamachi added.

FREE



▲シュガークリーク小学校のKaren Fletcher先生（4年生担任）から金田小学校4年2組の子どもたちへハロウィンのおもちゃやキャンディが贈られました。写真はプレゼントを手にして喜んでいる4年2組の児童たち



井上さんの書いたハムスターの絵を見て「very cute」とてもうまい！とでもかわいい！と驚っていました。

ヴェローナの学校に行く3人の先生は、毎朝早く起きて、遠く離れた学校へ通った。

日本から来た、高等学校の教師 坂本けんじ先生、中学校の数学教師 橋本ふみあき先生、小学4年生を受け持つ山内淑子先生の3人は、10月6日からヴェローナ地区の学校に来ていて、教室を観察したり、ヴェローナの生徒に日本の文化を教えたりしていた。(中略)

3人の任務は、アメリカの授業を研究して生徒に何か紹介することだった。3人は、お礼、お茶の作法、着物、書道など日本文化を教え、生徒が熱心に学び共有してくれたことに、3人は感銘を受けた。(中略)

小学校の先生である山内さんは、ここの小学校の先生は、自分の科目に専念することができる事に気付いた。「日本では、私はすべての科目を教える。体育、音楽、美術、水泳は他の人に教えてもらっている」と彼女は言っていた。

山内さんはまた他に見抜いたことを申し出た。生徒はたぶん認識していないだろう。「日本では、生徒は教室や廊下を掃除するが、ここでは掃除してくれる人がいる」ということだ。(中略)

私は、ハロウィンを本当に楽しんだ。子ども達が家に来て、私は飴をあげた。私達はカボチャに穴をあけ、それをローソクで照らしていた。(中略)

訳 久絵

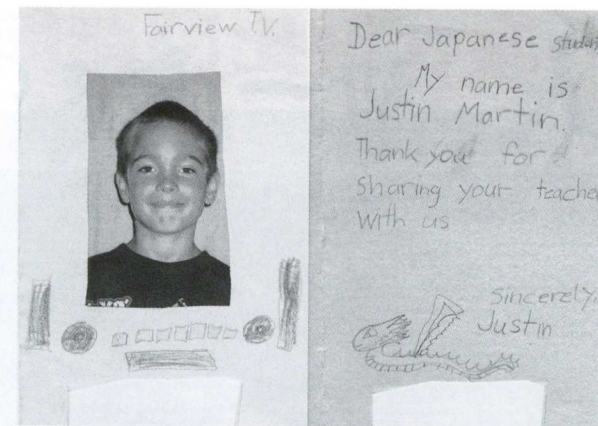
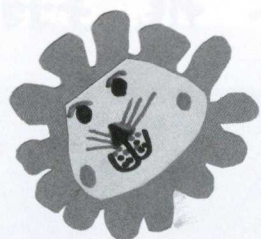


▲ミルウォーキーのFairview小学校の3年生です。このクラスの子どもたちから金田小学校の4年2組の子どもたちへプレゼントが贈られました。

プレゼントの内容
お手紙、手作りのしおり、えんぴつ
4年2組のみんなはプレゼントをもらってとても喜んでいました。

◀井上ひろみ（4の2）さんからの質問
「ハムスターを知っていますか」
「どんな動物が好きですか」

アメリカの子どもたちの答
全員「イエース」
「犬、ねこ、うさぎやいろいろ」



◀日本の生徒のみなさんへ
あなたの先生がぼくたちといしょにすごしてくれて、ありがとう

ジャスティン

アメリカで行なった授業内容

- ◎金田小学校の学校紹介（スライド、ビデオを使って）
- ◎日本の子どもたちの様子（4年生の子どもたちの様子をビデオやスライドにとって）
- ◎ふるさと紹介 金田町と糸田町の様子を中心にビデオ、スライドにとったものを紹介したり、田川の伝統を説明したりしました。（香春岳、川渡り神幸祭、炭坑節など、ポスターやはっぴを使って紹介しました。）

その他アメリカの子どもたちに紹介したもの

- ◎日本の歌（「ふるさと」、「星の世界」、「ありがとうさようなら」など）
- ◎日本語の紹介（あいさつなど）
- ◎日本の文化の紹介（伝統行事など）
- ◎習字、おり紙、茶道など

アメリカの子どもたちからは「ぜひ剣道をしている様子が見たい」「教室にかざっているこいのぼりの絵を見たい」などの意見がたくさん出ました。



◀ウイスコンシン州ヴェローナにあるシュガークリーク小学校の3年生のクラスで「かぶと」の作り方を教えてあげました。

アメリカの子どもたちは、かぶとを知らなかったが、とても喜んでかぶっていました。

山内先生の感想

アメリカと日本は文化も歴史もちがうので、教育システムにもかなり異なる部分があります。しかし、どちらの方がいいとは一概には言えないと思います。それぞれがよい面をまねしあって、いい部分を取り入れていくとよいと思いました。

また、今回の研修で一番勉強になったことは、たとえ言語や文化がちがってもお互いを分かり合おうとする気持ちがあれば、人は心をかよわすことができるということでした。

自分が今回アメリカで体験して感じたことは、これからの指導に役立てていきたいと思っています。

アメリカの小学校は平成12年9月20日〜12月18日までの3ヶ月間、金田小学校教諭の山内淑子先生（4年2組担任）が、アメリカ合衆国ウイスコンシン州の小学校2校に、文部省の日米国民交流事業の一員として派遣され、3ヶ月間の長期研修を終え、12月20日金田町教育委員会に報告に訪れました。

また、日本との違いで特徴的なことは、体育・音楽・図工などの専門教科のスペシャリストが授業を行っているところ、掃除については、業者に委託していることなど、大きな違いがあるということでした。

日米の教育システムに一長一短があり、それぞれに進んだ良いところや、伝統的な良いところがあっても一概には言えないということでした。



祝 成人 初一念そして飛翔



前日からの冷たい雨はあがり、穏やかな気温の中、21世紀はじめての成人式が1月8日（祝）に総合会館で行なわれました。

今年の成人式の該当者は151人で、このうち104人の新成人が晴着やスーツに身をつつみ参加しました。

式典では、田中教育長、吉田町長、若林議長の祝辞のあとに、中学校の恩師坂本三男教諭（現金田中学校在職）が当時の思い出の中から、はじめての高校訪問や長髪問題が、周りの人達の支えによって実現できたこと等を話しました。それに対する答辞として、新成人を代表して須藤 恵さん（宝見在住）が、先生方や親の支えがあったから成人式を迎えら

れたことに感謝し、また金田町が住みやすく、居心地のいい町になることを願っていますと述べ、会場の大人の先輩からも拍手がわきました。

金田町の新成人の皆さんは、新聞やテレビで報道されているようなルールを守れない人達でなく、式典の間は静かに話を聞いていました。

式典終了後、別会場で記念撮影をし、そして前庭での記念植樹が終わると20歳を祝う親睦会が行なわれ、楽しいおしゃべりのひとときに移りました。久しぶりの級友との会話や写真、先生との思い出話や近況報告をし、和やかな雰囲気の中でゆっくり過ごしていました。



▲成人式の記念に、はいポーズ



新成人の名簿は最終ページに載せてます

下田川合同消防出初め式



今年一番の冷え込みの朝、下田川合同消防出初め式が1月14日（日）方城町民グラウンドで行なわれました。

時折、横なぐりの雪の舞う中、463名の消防団員と16台の消防車輛が堂々たる行進を行ない、日頃の練習の成果を披露しました。

また、金田町消防団からは、次の団員が表彰されました。

- 県知事感謝状（20年）
坂田 勝彦
- 福岡県消防協会（優良団員）
森野 秋人、吉田 勝義
大井 俊尚、鶴元 龍一
吉田 誠、相原 真二
貞国 明男

■福岡県消防協会（永年勤続）

- 10年 巖田 英志、田村 英俊、
永末 九州男
- 15年 辰島 繁雄、桑野 能史、大井 俊尚
森野 千代利、堀池 弘幸
- 20年 坂田 勝彦
- 25年 永富 隆行
- 35年 石井 康文、原口 勝夫、森 良太郎

■福岡県消防協会（親子表彰）

- 平島 友作 平島 太、竹宗 進造 竹宗 慶
大島 道人 大島 祐介

■田川郡消防支部連合会表彰

- 森藤 光博、蜂屋 恵一

■町長表彰

- 山本 一博、大井 政和、桑本 信吾、田中 仁史
平島 肇、永富 秀樹、中村 勝博 【敬称略】

21世紀の日の出を日王山で

21世紀の初日の出を日王山山頂で迎えようと、1月1日（元旦）の早朝5時30分過ぎに、ふれあい塾キャンプ場に昨年を上回る約280人以上の方が訪れ、初日の出ハイキングに参加しました。

天候には恵まれたのですが、ちょっと残念、初日の出を見ることはできませんでした。しかし、21世紀の幕開けを町内外の多くのみなさんが東の空を眺め、

7時30分過ぎまで日王山山頂は賑わいました。

下山後は、ふれあい塾を支える会のボランティアのみなさんによりキャンプ場で、ぜんざいとかつぼう酒が振る舞われ空腹を満たした後、ジャンケン大会や宝くじ抽選会が行われ、新春から大きな笑い声と抱負を語るみなさんで熱気にあふれていました。



▲日王山山頂での21世紀最初の記念撮影